〔鹿大農学術報告　第55号，p. 37-53，2005〕

中国新疆ウイグル自治区における農村女性の地位と役割

ローシェングリ アブリミティ・岩元　泉・坂爪浩史・高梨子文恵
（農業市場学研究室）

平成16年8月10日　受理

要　約

現在，新疆ウイグル自治区の農村女性において教育レベルの格差が拡大している。そこで我々は農村地域における女性の教育レベルの現状，および低学歴が家庭経済状況とどのような関係にあるかを明らかにすることを目的として，トルファン市ヤル村およびウルムチ県三坪農場の２つの地域で調査研究を行った．

この２つの村で調査した結果，ウイグル農村女性においては教育機会が乏しく依然として低学歴状態に置かれていることが分かった．また，伝統的慣習による早婚の傾向，早婚による離婚，さらに低学歴に深い相関関係が見られた．これらは低い経済生活水準とも相まって，悪循環に陥っている．しかし次第に女性の収入が世帯の収入に寄与する割合も高くなってきている．経済的収入機会を増やすことが農村女性の地位向上には重要であることが明らかになった．

キーワード：新疆ウイグル自治区，農村女性，教育水準，早婚，収入機会

緒　　言

中国は1949年に社会主義国家として新体制を建設した後は，男女平等の社会へと急激な転換をはかった．女性の社会進出が急速に進み，「女性は天の半分を支える人たち」という毛沢東主席の言葉のとおり，女性は男性と平等の社会的役割と責任を担ってきた．現在では，政治，就業などの面で女性の果たす役割が比較的大きい国として広く知られている．統計によると，1999年現在，中国の女性就業者は世界平均を12ポイント上回って，就業者全体の46.5％を占めている．また，女性の政治参加の状況も世界的に高いレベルにあり，1998年の全国人民代表大会の代表（日本の国会議員に当たる）2,979人のうち女性が占める割合は21.82％で，世界20位となっている．

一方，中国の長い歴史を見ると，その大半は封建的，保守的な社会体制であり，女性の地位が低かったため，伝統的（および宗教的）意識と慣習が根強い辺境地域や農村地帯，特に貧困地域では，女性の未権利状態がいまだに残っている．それは女性の結婚と教育に端的に表れており，これらの地域で女性は，早婚，離婚の割合が高く，教育水準がきわめて低いといった状態に置かれ，家事・育児の中で過重な労働を担っている．しかし，その実態については限定された地域での調査がほとんどで，農家のレベルでの調査は行われていない．また，今までの調査結果の比較研究もほとんど行われていない．

このような状況を踏まえて，本研究では，中国の最西部に位置する新疆ウイグル自治区における農村女性の地位と役割を取り上げる．そのため，伝統的意識が根強い辺境地域における性格の違う２つの村で農家調査を行った．その結果を比較することによってウイグル農村女性の現状を明らかにし，地位と役割を考察する．

Ⅰ．新疆ウイグル自治区の概況と特徴

1　新疆ウイグル自治区の概況

新疆ウイグル自治区は中国の北西部に位置し（図1参照）．面積は166万km²で，中国の総面積の６分の１を占め，行政面積の最も大きな省である．2001

連絡責任者：岩元　泉（農業市場学研究室）

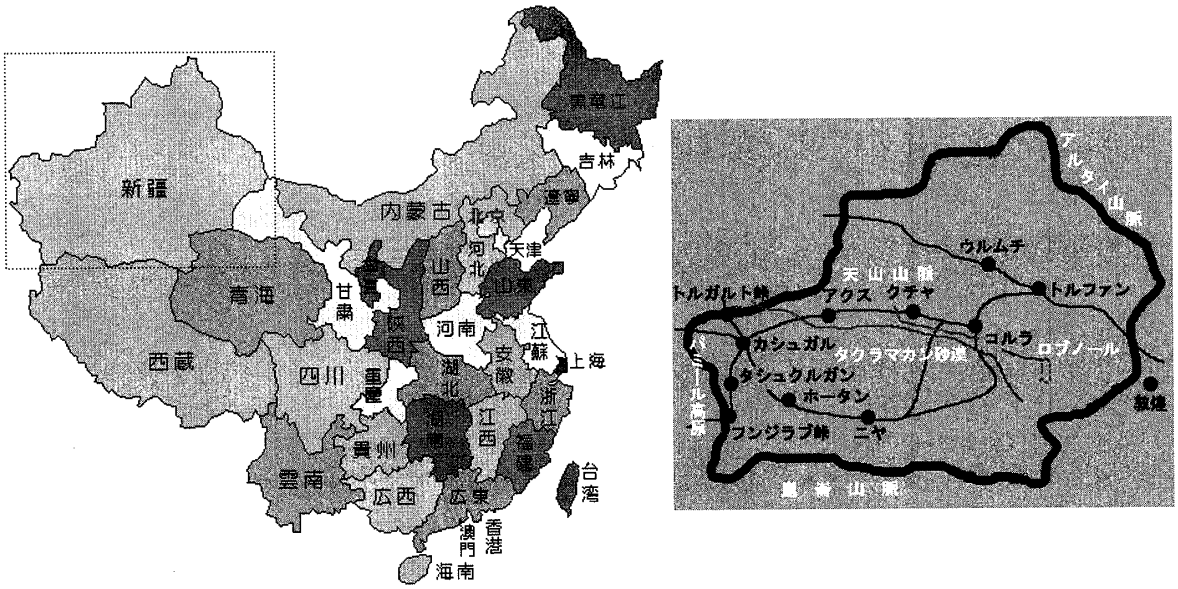

図1　中国と新疆ウイグル自治区の地図
Map of China and Xingiang Uighur

年現在，総人口は1925万人あまりで，そのうち少数民族の人口は1096万4900人と総人口の59.39％を占める．漢族は749万7700人である．主な民族はウイグル族，漢族，カザフ族，回族，蒙古族，キルギス族，タジク族，シボ族，ウズベク族，満州族，ダオール族，タタール族，ロシア族など13の民族である．少数民族の中でウイグル族の人口は800万人前後でそのほとんどがイスラム教徒である．新疆ウイグル自治区は中国の一部であるが，ウイグル人は漢民族と人種が異なるだけでなく，漢文化の影響を受けながら様々な地理的，歴史的，宗教的な背景によって形成された独自の文化をしっかりともち続けている．

新疆ウイグル自治区は中国で国境線の最も長い省（区）で，北東部はモンゴル，西はロシア，カザフスタン，キルギスタン，タジキスタン，南西部はアフガニスタン，パキスタン，インドと接し，国境線は5,600kmもある．新疆ウイグル自地区の政治，経済，文化，そして情報の中心地は区都ウルムチ市（人口約150万人）であり，中国の改革開放政策によって高層ビルが建ち並び，自家用車が普及するなど近代化が急速に進んでいる．その一方で，新疆ウイグル自治区は昔ながらの農業地帯であり，農・林・牧畜業に利用できる土地面積は約6,800万haで，総面積の41.2％を占め，そのうち開墾可能な土地は933万ha，すでに開墾された土地は約408万ha，利用可能な天然草地は約4,800万ha，人工草地は約67万haで，中国の五大牧畜区の一つである．林業用地は約484万ha（林地は約153万ha），林木の蓄積量は2億5000万m^3である．2000年の統計によると，自治区の国内総生産（GDP）1,365億元（1元＝約13円・2004年現在）のうち農業総生産が487.2億元で全体の1/3を占める．

2　新疆ウイグル自治区の教育水準

中国政府は少数民族にも漢民族と同様に教育を受ける権利を保障している．教育は民族存続の先決条件であるとしている．新疆ウイグル自治区で，大学教育を受けたものは94万9100人（5.14％），高校教育を受けたものは223万1900人（12.09％）を占め，初級中学教育を受けたものは508万2500人（27.53％），小学校教育を受けたものは700万6600人（37.95％）に達している．自治区の非識字人口は102万6400人で，1990年に行った第4次全国国勢調査に比べて，総人口に占める非識字率は13.07％から5.56％に7.51ポイント下がった．中国における少数民族の成人女性の非識字率は急速に低下しており，15歳以上の非識字者女性の比率は1982年には58.5％であったが，1990年には41.7％で17ポイント低下した．

しかし，農村の少数民族女性の非識字者[注1]は増加している．1980年は非識字者が1,179.8万人であったのに対して，1990年は1,225.5万人と3.9％増加していた．このうちウイグル女性が占める割合は28.8％である．

3 ウイグル民族および農村女性の教育

1990年に南新疆で行われた農村女性の調査[6]では，ウイグル農村女性のみを対象に教育レベルを調べている．その結果，小学卒業は30%，中学卒業は6%，高校卒業は37%であった．小学校で中途退学した女性は26%，中学校で中途退学した女性は11%，高校で中途退学した女性は2%を占めている．

退学した原因としては，①「家庭生活が困難であり，勉強を続けられない」(63%)，②「親の離婚による退学」(14%)，③「在学中の結婚による退学」(9%)となっている．

この調査結果から経済的な困難という原因で退学した女性が多いことが分かる．南新疆ウイグル農村では毎年8,000名の女性が様々な問題で卒業できず，家庭に戻り，家事を負担している．この中途退学した8,000名の女性はその後教育を受ける機会がないために再び識字できなくなる可能性が高く，既存の非識字者に加えて，非識字者の増大が懸念されている．このことは伝統的な農業が近代農業へと脱却していく上で大きな弊害となる．非識字者が増えることが経済発展の障害となるという悪循環が続くことになる．

教育には，家庭教育，学校教育と社会教育という3つがあるが，ウイグル農村社会では，「家庭教育の中で女子には厳しいしつけが必要である」という伝統的な意識から女子に対して服装，食事作法，行儀作法などについて厳しくしつけが行われている．

南新疆ウイグル農村調査[6]によると，80%の女性が，家庭での地位は比較的低く，座る場所も決められていると答えている．例えば，カンと呼ばれる床暖房では温度の低い場所が女性の座る位置と決められている．また，60%の女性が「家族で食事する際に，男性と女性が一緒に食べてはいけない」と答えており，20%の女性が「家庭で家事以外のことをやってはいけない」と答えている．

家事のしつけは家庭教育の中で重要なしつけの一つである．ウイグル農村では，家事は女子が行うものであるとされており，5～7歳の子供でも70%もの女子が家事をしている．95%の女子が10歳までには家事をしている．

家庭教育の中で，親が女子に望む家事は①水くみ②庭の掃除③洗濯④皿洗い⑤料理⑥兄弟の世話⑦家畜の世話である．その他に，10歳以上の女子には畑仕事の手伝いも望まれる．

注

[1] 少数民族の非識字者とは，中国語はもちろん，その民族の文字も読み書きできないということである．

Ⅱ．新疆ウイグル自治区における農村女性の現状

1 ウイグル農村女性の多様な役割

女性の家庭での役割は重要であり，また主な労働力としても重要な存在である．ウイグル農村女性は家庭内外の労働を担っている．家事の他には家畜の世話も女性の仕事である．家庭外では，灌漑整備，土地を耕すこと，綿花を収穫することなどの仕事がある．畑で働く時には，仕事をしながら子供の面倒を見なければならないなど，ウイグル農村社会の中では女性の負担がますます増加している．

南部の調査によると，ウイグル農村女性の労働による家庭収入は夫より少ないとは限らない．しかし，家計は夫がコントロールしているため，女性は自分の収入が何に使われているのかを知らず，毎年の家計状況も知らない．女性は毎日の仕事をするのみであり，将来のことも考えていない．「何事も男性が一番，家計も男性が管理，男性のことを大事にする」というのがウイグルの伝統的意識である．女性はほとんど外出せず，希望は子供を産むことだけである．夫と舅・姑と家族の世話，家事，家畜の世話，畑の仕事におわれ，女性達は自分の健康のことも考えることができない．

2 ウイグル農村女性の結婚観

中国の婚姻法では，男女の結婚相手を自ら選ぶ自由と権利が保証されている．結婚は本人の望みにより決められることである．しかし，南新疆の伝統的なウイグル農村社会では，農民の婚姻に対する見方は未だ変わっていない[9]．男性と女性は政治的，経済的，文化的，社会的に不平等で，家庭生活における地位はさらに不平等である．古い伝統，習慣が残っているということである．

伝統的な観念では，娘を早婚させることによって親を養育の義務と負担から早く解放するとともに，結納金は経済的にも役立つとされている．しかし，女性は若年から妻として，母としての責任を担わなくてはならず，学問に対する希望もなくなる．その結果．女性の教育水準は低く抑えられており，その子供の教育レベルも低くなる傾向にある．

3　ウイグル農村と女性の就業問題

1990年における全新疆の少数民族女性人口は463万人で，全新疆の少数民族人口の48.89％である．このうち女性労働適齢人口は261万人である．全新疆女性適齢人口の56.5％にあたる．ウイグル人女性は少数民族女性人口の半分以上で，そのうち70％以上は農村に在住している．近年の南新疆ウイグル農村女性の状況と職業選択状況の調査から，経済発展および仕事に対する女性の価値観が明らかになった．

表2-1をみると，①南新疆ウイグル農村女性の大部分は農民であり，畑の労働と家畜労働および家内労働に従事している．②郷鎮企業や農村工業は未発達で，農村女性の就業機会は限られている．③文化的な生活が遅れており，文化教育に関する仕事についている女性が少ない．④改革開放以降，農村経済の発展に伴って地区によっては，女性は農産品と手工芸を中心に，商業活動を積極的に行っている．南新疆農村女性の就業人口と就業構成のバランスは非常に悪く，第一次産業があまりにも高く，第二次，第三次産業の比率はともに低い．就業構成は非常に偏っている．このような就業構成は歴史上長期に渡って形成された農業生産方式および経済構造にあると考えられる．

表2-2をみると，女性が就職選択する際の問題として第1には，就職機会が少ないこと，第2に，教育レベルが低いこと，第3に，教育訓練機会がないこと，ついで性別，言葉の問題（民族によって異なる言語であること）などがあげられている．夫による反対などもある．

南新疆では，世帯あたりの年間収入における女性の収入割合は平均で27％であった[6]．女性の家庭経済への貢献度は決して低いとはいえないが，さらに農家の経済水準を上げていくためには女性の収入を上げていく必要がある．しかし，農村の貧困地区では年収が低いため教育を受けた女性でも自分の能力を発見することができない．女性は仕事をするために教育を受けなくてはならないが，教育を受けるためには経済的に余裕が必要である．また，情報が不足しているために農業以外に就職するのが困難なため，農村内で兼業化することが難しい．これらの問題が，女性の就業機会を少なくしている要因であると考えられる．

表2-1　南新疆の農村女性の職業分布
The occupations of rural women in south Xinjiang

(%)

地区		ホタン1	ホタン2	カシカル7	カシカル4	クチャバザー	クチャ上	クチャ下	平均
職業	農民	75%	78%	79%	74%	43%	67%	59%	68%
	工人	7%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	15%
	労働者	0%	0%	0%	2%	3%	3%	0%	1%
	教師	0%	0%	0%	0%	5%	17%	0%	3%
	商人	17%	0%	0%	0%	27%	0%	40%	10%

注：全女性を100％としてみた数値，したがって残りは無職女性である．
出所：シェレナイ[4]より引用

表2-2　女性の職業選択時の問題
The problems when women select their occupation

(%)

地区	ホタン1	ホタン2	カシカル7	カシカル4	クチャバザー	クチャ上	クチャ下	平均
言葉の問題（注1）	13%	25%	14%	4%	35%	3%	6%	14%
教育訓練機会がない	9%	4%	18%	11%	7%	24%	38%	16%
就職機会が少ない	17%	29%	32%	37%	15%	49%	25%	29%
性別の問題（注2）	30%	4%	18%	22%	2%	27%	0%	15%
夫による反対	13%	4%	14%	0%	2%	3%	0%	5%
教育レベルが低い	13%	21%	50%	15%	2%	19%	28%	21%
他の問題	4%	0%	0%	7%	0%	3%	3%	3%

注1：ウイグル民族は中国語を話せないと仕事を見つけるのが困難である。
　2：性別問題とは，男女の職業機会が不平等であるということ。
出所：シェレナイ[4]より引用

Ⅲ．純農村地帯における農村女性の地位と役割
―トルファン市ヤル村―

1　はじめに

これまでの研究ではウイグル民族の伝統がもっとも強く，深く残っている南新疆におけるウイグル農村女性を対象として，地域全体の状況を把握する調査方法がとられてきた．われわれは，天山山脈の麓，古くから開けた純農村地帯の中心地トルファン市ヤル村と新疆ウイグル自治区の区都ウルムチに比較的に近く，経済，情報など各方面でウルムチ市への依存がかなり大きいウルムチ県三坪農場７村を選び，農村女性への直接面接調査を実施した．その理由は，比較的都市化や近代化の影響を受けやすく漢民族との混住化も進んでいるウルムチ周辺におけるウイグル農村女性においては南新疆に比べて女性の役割や地位が改善されているのかどうかを調査する必要があったこと，および地域全体の調査ではなく，農村女性から直接の意見を把握することにあった．２つの農村を選んだのは，トルファン市ヤル村は長い歴史を持つ昔ながらの農村地帯であるのに対して，三坪農場７村は新中国が建国されてから開拓された新しい農村地帯であり，２つの調査地における地理的，社会経済的条件が大きく異なることが農村女性の地位と役割にどのような影響があるかを検討するためである．

1）調査地の概況及び調査方法

トルファン市はウルムチ市から240km南に位置する古くから開かれた農村地帯の中心地であるが，新疆ウイグル自治区全体の中ではウルムチ市に比較的近い都市であり，観光地としても知られている．トルファン市は東天山に位置し，海抜マイナス154mと中国では一番低い山間盆地であるので，夏の気温が高く，昼夜の気温較差が大きい．新疆ウイグル自治区の中でも最も水不足の厳しい地帯である．

こうした条件から，本地域の農業は昔からブドウを中心的な作物とし，とうもろこし，野菜，綿花，メロン，スイカ，クミン（香辛料）等が栽培されている．これらの栽培には地下水を使っている．総人口は145,421人，男が79,111人で，女が66,310人で，そのうち農業人口は82,004人（56％）である．全体

表３-１　調査地の概況
The outline of Yaru Village in Turfan City

調　査　地		トルファン地区（市・県）	ヤ　ル　村
人口	（人）	566,854	50,000
男　性	（人）	289,188	25,906
女　性	（人）	277,666	24,094
民族の種類		7	3
漢 民 族	（人）	115,014(20％)	15,000(30％)
回 民 族	（人）	3,333(6％)	5,000(10％)
ウイグル民族	（人）	413,666(73％)	30,000(60％)
農業人口	（人）	421,433	45,203
世 帯 数	（戸）	62,973	7,060
農家世帯数	（戸）	46,825 74％)	5,650(80％)
総 面 積	(km^2)	69,713	1,774
農　地	(ha)	44,667	1,678
米			283
トマト			213
ブドウ		6,933	1,082
穀　物			100
その他			
主な作付け品目		ブドウ，菜種	トウモロコシ，大豆
特 産 物		干しブドウ	干しブドウ，畜産品
農業以外の産業		観光業	観光業

出所：2003年８月の面接調査により作成

戸数は18,177戸，このうち農家戸数は10,250戸（56%）である．民族は7民族が居住している（トルファン市内のみの数値．表3-1はトルファン市・県およびヤル村全体の数値である）．

今回調査を行ったヤル村1組（以下では単にヤル村と表記する）は，トルファン地区の観光の中心地である[注1]．村の全体面積は2,150aで，そのうち主な栽培品目であるブドウの栽培面積は1,500aである．村の人口は1,904人で，うち男956人，女948人である．また農業人口は1,424人（75%）と村の人口の大部分は農民で，そのうち男は716人，女は708人である．ウイグル民族と漢民族の2つの民族が生活している．ヤル村農家の年間収入は平均で一人当たり1,200元と推定されている．

調査方法は，村の女性問題担当主任マリヤムを同席させた上で，50名の女性をランダムに選定して面接調査方式で行われた．この方法を採ったのは，アンケートによる調査では教育レベルの低い女性から充分な回答が得られないからである．調査の目的は，農村女性達の家庭内外労働の現状，女性の教育水準，結婚の現状を明らかにすることにあったが，農地，農業生産，所得，家計費全般にわたって調査を実施した．

2）調査農家の概況

(1) 家族構成

家族人数別農家数を見ると，9人以上の世帯が21戸（42.0%）と最も多く，7～8人の世帯も含めると74%を占める（表3-2）．ほとんどの調査世帯が3人以上の子供をもうけている．家族構成は2世代以上の世帯構成となっており，長男との同居が多い．「親は長男が面倒をみなければならない」という伝統的な考え方が根強く残っていることがわかる．しかし，多くの嫁いだ女性達が「義理の親と同居したくない」，「大家族で住みたくない．」「自分に属している農地を自分に分けて，自分の農地から収穫ができたらうれしい」と考えていることがわかった．

(2) 経営耕地の状況

経営耕地面積は比較的小規模で平均で43.3aだが，あとで比較する三坪農場よりは大きい（表3-3）．経営耕地面積別に見ると10a未満の農家はない．10～19aの農家が8戸（16%），20～29aの農家が12戸（24%），30～49aの農家が16戸（32%）と50a未満で82%をしめる．さらに50～99aの農家が11戸（22%），100～199aの農家が2戸（4%），200a以上農家が1戸ある．経営耕地は請負耕地と自留地に区分される．自留地面積はほとんどが10a以下であり，家庭消費のための様々な野菜が作られている．したがって経営耕地面積の大きさは，ほぼ請負耕地の大きさに規定されているといってよい．請負耕地での主な作目はブドウ[注2]である．請負耕地には特別な税金を払わないといけない．1ムー当たり480元を集団[注

表3-2　家族人数別調査農家
Households by number of family members　（戸）

家族数	戸数	割合
2人	1	2%
3～4人	6	12%
5～6人	6	12%
7～8人	16	32%
9人以上	21	42%
合計	50	100%

出所：表3-1に同じ

表3-3　経営耕地面積別農家数
Households by cultivated acreage　（戸）

面積	経営耕地	割合	請負面積	割合	自留地面積	割合
200a以上	1	2%	1	2%		
100～199a	2	4%	2	4%		
50～99a	11	22%	6	12%		
30～49a	16	32%	15	30%	1	2%
20～29a	12	24%	10	20%	1	2%
10～19a	8	16%	10	20%	5	10%
10a未満		0%	6	12%	43	86%
計	50	100%	50	100%	50	100%
平均(a)	43.3		36.2		6.6	

出所：表3-1に同じ

表3-4　年間収入および支出別農家数
Annual income and expenditure of households

（元・戸）

	収入		支出	
年額	戸数	割合	戸数	割合
5,000元未満	5	10%	4	8%
5,000～9,999	22	44%	32	64%
10,000～14,999	14	28%	7	14%
15,000～19,999	5	10%	6	12%
20,000元以上	4	8%	1	2%
合計	50	100%	50	100%
平均(元)	9,832		9,002	

出所：表3-1に同じ

表3-5　年齢別農村女性数および早婚率
Number of women by age of marriage

（人）

女性の年代	女性の総数	割合	最初の結婚年齢		早婚率
			13～15歳	16～19歳	
20代	4	8%	0	2	50%
30代	14	28%	0	9	64%
40代	15	30%	4	11	100%
50代	12	24%	1	11	100%
60代	3	6%	2	1	100%
70代	2	4%	2	0	100%
合計	50	100%	9	34	86%

出所：表3-1に同じ

3]に払う（1ムーは6.67a）．また灌漑用水についても別に税金を支払うことになっている．自留地には税金はかからない．

(3) 調査農家の年間収入と支出（家計費）状況

調査農家の年間の収入と支出をそれぞれ表3-4に示す．農家の年間総収入についてみると，5,000元未満の農家は5戸（10%），5,000～10,000元の農家が22戸（44%），10,000～15,000元の農家が14戸（28%），15,000～20,000元の農家が5戸（10%），20,000元以上の農家が4戸（8%）を占めている．20,000元以上の高額収入の農家は夫が牧羊業を兼業している．夫が羊飼いのため出稼ぎしている間，農村では女性と子供達だけでブドウの生産を行っている．女性のみでの農作業は労働負担が大きい．調査農家の1世帯当たり年間収入は9,832元で，一人当たりにすると1,232元である．

一方，調査農家の1世帯当たり年間平均支出は9,002元であり，農家の年間収入と年間支出の差は830元となって，女性はやりくりするのに苦労している．税金を支払うことが困難で滞納している農家も多い．さらに，教育費に回せる収入がないため，学校をやめざるを得ない子供達も多い．しかし，最も重要な問題は，医療費がないために病気になった場合でも十分な治療ができないことである．

2　ヤル村における女性の教育と結婚

1）調査対象農村女性の年齢

調査対象女性は，40代が15名（30%）で最も多く，30代14名（28%）がそれにつぐ（表3-5）．また，60代3名，70代2名が含まれており，三坪農場に比べると高齢女性が多い．最初の結婚年齢を聞いたのが，表3-5の右側の欄であるが，15歳までに結婚した女性は9名（18%）で，特に60代，70代の女性は半数以上が15歳までに最初の結婚をしている．40代以上の女性はすべてが19歳までに結婚していた．20代の女性では早婚率は50%になっており，早婚の傾向は減少に向かっているようである．

表3-6　女性の最終学歴
Educational background of women

（人）

最終学歴	人数	割合
非識字者	14	28%
無学	8	16%
小学卒業	19	38%
中学卒業	8	16%
高校卒業	0	0%
専門学校卒業	1	2%
大学卒業	0	0%
合計	50	100%

出所：表3-1に同じ

2）農村女性の教育水準

50名の女性の最終学歴を見ると（表3-6），非識字者と無学の女性が22名もいる．無学とは字は読めるが学校に入っていないものである．小学卒業19名，中学卒業が8名となっている．高校教育と大学教育を受けた女性は一人もいないが，専門学校を卒業した人が1名いる．

低学歴[注4]の原因を表3-7に示す．理由として多いのは家族の問題であるが，内容としては親が離婚した，親の考えが「女性は小学校の知識のみ，文字の読み書きだけで十分である」という古い考え方であった，などである．非識字者と無学のものは経済的理由も多い．学校へ行きたくないという消極的理由は少なかった．1980～2000年の20年間にヤル村

表3-7　低学歴の原因
Reasons for low educational level

（人）

低学歴の原因	非識字者	無学	小学	合計	割合
学校へ行きたくない	0	1	2	3	7%
経済の原因	6	2	5	13	32%
学校が遠いから	3	1	4	8	20%
家族の問題	5	4	8	17	41%
合計	14	8	19	41	100%

出所：表3-1に同じ

表3-8　女性の低学歴と結婚回数
Correlation between low educational level and remarriage

（人・%）

学歴	結婚回数				再婚率
	一回	二回	三回	合計	
非識字者	0	14	0	14	100%
無学	4	4	0	8	50%
小学	19	0	0	19	0%
中学	8	0	0	8	0%
高校	0	0	0	0	0%
専門学校	1	0	0	1	0%
大学	0	0	0	0	0%
合計	32	18	0	50	36%
%	64%	36%	0%	100%	

出所：表3-1に同じ

全体からウルムチの大学を卒業した高学歴者は170人いるが，全員都市部で就職し，帰村している女性は一人もいない．

女性の低学歴は結婚とも関連がある．表3-8は学歴と結婚回数の関連を見たものだが，2回以上結婚したもの，つまり再婚したものは50名中18名（36%）いるが，すべて非識字者及び無学者である．

3．ヤル村における農村女性の地位と役割

1）農業労働時間

聞き取り調査によって，女性の1日の生活時間を農作業，家事，睡眠に分け，それぞれ農繁期と農閑期について示したのが表3-9である．農繁期には農家女性の平均農作業時間が13.2時間に達していることが分かる．半日以上を農作業に費やしているのである．ウイグル農村内では機械化が進んでいないためである．これに対して，家事や育児に費やす時間は農作業の時間に比べると非常に少ない．特に夏季の農繁期の間の家事は娘が担当している．農閑期には家事の時間は相対的に長くなっているが，これ

表3-9　ヤル村女性の農業労働と家事労働の時間
Average working and housekeeping hours a day

（時間）

1日の労働時間				睡眠時間	
農作業		家事			
農繁期	農閑期	農繁期	農閑期	農繁期	農閑期
13.2	4.30	4.06	7.32	4.4	7.96

出所：表3-1に同じ

表3-10　農業就業開始年齢
Starting age of farming job

（人）

年齢	人数	割合
7 ～ 10	25	50%
11 ～ 14	15	30%
15 ～ 18	10	20%
合計	50	100%

出所：表3-1に同じ

には小物を手作りする時間と家畜の世話や家畜から得られる牛乳などからヨーグルトやチーズなど様々なものを作る時間が含まれているからである．

女性の平均睡眠時間は，過酷な農作業のため休養が必要であるにもかかわらず4.4時間と非常に少ない．また，イスラム教徒であるウイグル人は朝4時に起きて御祈りをし，それから家畜の世話をしていることも睡眠時間が少ない原因である．

2）農作業開始年齢

表3-10によると，ヤル村では7～10歳で就農する女性が50%を占めており，11～14歳で就農する女性は30%，15歳～18歳で就農する女性が20%とすべての女性が20歳以前に農業就業している．半数以上の女性が結婚する前に農作業を経験している．当初は家の手伝いという形で農作業に取り組み始め，次第に農作業の重要な担い手となっているのである．

3）農家の年間世帯収入と女性収入の割合

農家の年間世帯収入で15,000元以上の収入を得ている9世帯の農家は，夫も兼業で羊を飼い，羊毛を生産しているため高額収入をえているものである[注5]．夫は一ヶ月に一度出稼ぎ先から帰ってきて，300元を生活費として妻に渡す．農村では女性と子供達だけでブドウの生産を行っている．男性の力を借りずに農業を行うため女性の労働負担が大きい．

表3-11によって女性の収入の割合を見ると，全体では世帯平均収入9,832元に対して，平均女性収入は942元であり，世帯収入の10%をしめる．収入階層別に見ると，20,000元以上の世帯での女性の貢

表3-11　世帯の年間収入と女性収入の占める割合
Household incomes and women's contributions

(元・戸)

年間世帯収入	農家数(戸)	割合	平均収入	平均女性収入	女性収入割合
5,000元未満	5	10%	3,750	500	13%
5000～9,999	22	44%	7,076	604	9%
10,000～14,999	14	28%	11,007	471	4%
15,000～19,999	5	10%	15,814	1,720	11%
20,000元以上	4	8%	21,000	4,025	19%
合計・平均	50	100%	9,832	942	10%

出所：表3-1に同じ

献が最も高く19%を占める．低収入の5000元未満の世帯での女性の貢献も13%と大きい．中位収入世帯では女性の貢献は少ないといえる．全体としてみると，ヤル村では女性の就業機会は少なく，その分収入の機会も少ない．その結果女性の世帯収入に対する貢献は低いものとなっている．これは南新彊についての調査結果[6]での27%に比べても低い．

ここで，年間収入21,000元の高収入をあげているイデレス・イスマイの事例を見てみよう．経営形態は，ブドウを中心とした畑・果樹・酪農などの複合経営で，これ以外に乳牛4頭，馬2頭，ロバ2頭，羊200頭，ハト100羽，アヒル70羽を飼育している．家族数は11名で，うち女性3名である．家族のほかに雇用労働者を4名ほど雇う．イデレス家の女性3名の仕事は主に農作業であるが，その他にもミルクからヨーグルトやバター，チーズを生産するなど，多岐にわたっている．また，花を付けた鞄や帽子を手作りして，年に一度バザーに出す．イデレス家の年間総収入のうち，女性のこのような労働による収入の割合は46%を占めており，女性の収入が世帯の高収入に貢献している事例である．

表3-12　女性個人の収入の使い方
How women use their income

(人・%)

	実数	割合
夫に全部渡す	34	68%
一部自分で使える	0	0%
自分の部分は全部自由に使える	6	12%
家族全員の分を自分が取り仕切る	10	20%
合計	50	100%

出所：表3-1に同じ

4）農村女性の個人所得は自分で自由につかえるか

「南新彊ウイグル農村女性の教育レベル調査」[6]によると，当時は家計運営に女性の影響力はなく，家庭の財布を握っているのは男性で，女性が家計に関わることは許されていなかったようである．女性には将来の展望がなく，行き当たりばったりの生活を送っていたという印象を受けたということである．今回の調査によると（表3-12），収入の全てを夫に渡すという回答は34人（68%）で，依然として家計の実権を夫が握っている傾向が強いが，32%の女性が自由に使っていると答えた．10年前に比べ，状況はいくらか変化してきている．次第に，家計の管理は女性の仕事であり，家庭内の足りない物や子供の洋服，家具と自分の欲しい物を買うのは女性が決めて，夫から現金を受け取るというようなことが増え

表3-13　女性の学歴と農家の年間収入との関係
Correlations between household income and low educational background

(元・戸)

女性の学歴	年間収入				
	5,000未満	5,000～9,999	10,000～14,999	15,000～19,999	20,000以上
非識字者	2	2	4	3	3
無学	0	6	2	0	0
小学卒業	1	10	6	1	1
中学卒業	2	4	2	0	0
専門学校卒業	0	0	0	1	0
合計	5	22	14	5	4

出所：表3-1に同じ

ているのである．

5）農村女性の教育水準と農家の年間所得

教育を受けた女性が含まれる世帯は28世帯ある．しかし，表3-13からわかるように教育を受けた女性がいる世帯の年間収入が高いとは限らない．教育レベルの低い女性の世帯でも年間収入は高い場合が多い．つまり，女性だけを対象として比較した場合，教育レベルの高い女性のほうが高収入であるが，世帯全体の収入で比較すると，女性の教育レベルはあまり反映されていないようである．今回の調査では高学歴者が村に存在しなかったために学歴と収入の相関関係は明瞭でなかった。

注

[1] ヤル村には天山山脈地域の独特の灌漑施設であるカレーズの見学施設がある。

[2] 生ブドウの収穫時期は8月以降で，契約している会社に売るものと，農家が自分で干しブドウを作り，市場に出荷するものとがある．取引価格は，生ブドウは1kg当たり0.5元，干しブドウが1kg当たり6元である．ブドウの苗は11月下旬からの雪害を防ぐために11月中旬までには土で覆わなければならない．翌年の3月には覆っていた土を退かし，農作業が始まる．年間収入が少ないために11月からの農閑期には，男性が兼業で出稼ぎに行き，女性は家事に加えて帽子や鞄など様々なものを作り，売っている．

[3] 人民公社時代の生産隊にあたる単位．徴税機能を持つ．

[4] 本稿では，非識字者，無学者および小学校卒業者までを低学歴といっている．非識字者と無学者との違いは，無学者は学校には入っていないが字が読めるものである．

[5] 牧羊業は，羊群とともに寝泊まりしながら草原を移動するので，夫は長期不在となる．家に帰るのは1ヶ月1回程度である．

Ⅳ．都市近郊農村における農村女性の地位と役割
ーウルムチ県三坪農場ー

1．ウルムチ県三坪農場の概況及び調査方法

1）調査地の概況

三坪農場は区都ウルムチ市の郊外ウルムチ県にあり，農業連隊（連隊は村を指す）が16連隊，工業工場が12社，建築工場が1社，運送企業が1社，商業サービスが6社ある．農場の面積は64,125aで，耕地面積45,176a，総人口は11,402人，このうち女性人口は5,525人，男性人口は5,877人である．総人口のうち漢民族は4,564人，全村人口の42%である．回民族は4,801人，34%，ウイグル民族は1,596人，15%を占めている（表4-1参照）．農作物は加工用のトマト（ケチャップ）とブドウ（ワイン）が有名で，耕作面積はトマトが1,514a，ブドウは5,061aとなっている．今回はそのうち7村について調査を行った．

表4-1　調査地の概況
Outline of 7th Commune in Sanpei Farm Village

調査地		三坪農場	7村
人口	(人)	11,402	497
男性	(人)	5,877	231
女性	(人)	5,525	266
民族の種類		3	3
漢民族	(人)	4,564(42%)	147(30%)
回民族	(人)	4,801(34%)	150(30%)
ウイグル民族	(人)	1,596(15%)	200(36%)
農業人口	(戸)	7,889	437
世帯数	(戸)	1,900	82
農家世帯数	(戸)	1,577	54
割合		83%	
総面積	(a)	64,125	3,200
農地	(a)	45,176	2,790
米	(a)		
トマト	(a)	1,514	887
ブドウ	(a)	5,061	1,000
穀物	(a)		693
その他	(a)		193(菜種)
主な作付け品目		小麦	米
特産物		ワイン，ホップ	トマト，ホップ
農業以外の産業		食品加工工場	食品加工等

出所：2002年8月の実態調査により作成

表4-2　家族人数別調査農家戸数
Households by number of members

(戸・%)

家族数	戸数	割合
2人	2	3%
3～4人	22	37%
5～6人	31	52%
7～8人	4	7%
9人～	1	2%
合計	60	100%

出所：表4-1に同じ

三坪農場7村（以下では単に三坪農場と表記する）は人口497人のうち80%以上が農民で，女性が266人，そのうちウイグル女性が101人である．村の耕地面積は2,790aで，生産請負制によって農業が営まれている．

2）調査方法

調査は，トルファン市ヤル村の場合と同様に村内のウイグル女性のリーダーであるアマングルを同席させた上で，彼女の紹介による60名の女性に面接調査方式で行った．調査の目的は，女性の農業労働と

表4-3　経営耕地面積別調査家数
Households by cultivated acreage

(戸・%)

面積	経営耕地	割合	請負面積	割合	自留地面積	割合
200a以上	2	3%	2	3%		
100～199a	1	2%	1	2%		
50～99a	1	2%	1	2%		
30～49a	1	2%				
20～29a	23	38%	1	2%	3	5%
10～19a	32	53%	26	43%	19	32%
10a未満			29	48%	38	63%
計	60	100%	60	100%	60	100%
平均(a)	27.9		19.8		8.1	

出所：表4-1に同じ

家事労働の現状，教育水準，結婚と離婚の現状を明らかにすることである．

3）調査農家の概況

(1) 家族構成

三坪農場は各地からの移民が多いため高齢者は少なく，2人世帯は2戸しかなく，また7人以上の世帯も5戸（8.4%）しかない（表4-2）．3～4人家族が22戸（36.7%）7～8人家族が31戸（51.7%）と，新彊ウイグルの農村としては比較的小家族である．

(2) 経営耕地の状況（表4-3）

経営耕地面積が10a未満の農家はない．10a～19aの農家は32戸（53%），20a～29aの農家が23戸（38%），30～49aの農家が1戸（2%），50a～99aの農家は1戸（2%），100～199aの農家が1戸（2%），200a以上の農家は2戸（3%）であった．すなわち，30a未満の小規模農家が大半（91%）を占め，そのなかにやや規模の大きな農家が数戸存在しているという構造になっている．調査農家の平均耕地面積は27.9aであった．

経営耕地のうち請負面積についてみると，10a未満の農家が29戸（48%），10～19aの農家が26戸（43%），20～29aの農家が1戸（2%），50～99aの農家は1戸（2%），100～199aの農家が1戸（2%），200a以上の農家は2戸（3%）であった．このことから請負面積自体に規模の差があり，全体の経営面積の差に反映していることが分かる．

三坪農場における請負耕地での主な作目はブドウとトマトである．請負耕地では1ムー（6.67a）当たり380元の特別な税金を村の集団に払うことになっており，灌漑用水にも別に税金を支払わなければならない．自留地については，10a未満の農家が38戸（63%）で，10～19aの農家が19戸（32%），20a～29aの農家が3戸（5%）であり，30a以上の農家はない．自留地については税金の賦課はなく，家庭消費用の野菜が作られている．

表4-4　年間収入および支出別農家数
Annual income and expenditure of households

(単位：元/戸/%)

	収入		支出	
年額(元)	戸数	割合	戸数	割合
5,000未満	0	0%	0	0%
5,000～9,999	24	40%	24	40%
10,000～14,999	27	45%	30	50%
15,000～19,999	7	12%	6	10%
20,000以上	2	3%	0	0%
合計	60	100%	60	100%
平均(元)	10,850		10,250	

出所：表4-1に同じ

(3) 調査農家の年間収入と支出（家計費）状況

調査農家では，年間総収入が5,000元未満の農家はない．5,000～9,999元の農家が24戸（40%），10,000～14,999元の農家が27戸（45%）であった（表4-4）．高額収入者とされる15,000～19,999元の農家は7戸（12%），20,000元以上の農家は2戸（3%）みられた．表示していないが，年間収入は，高齢な世帯あるいは専業農家ほど少ない傾向が見られた．60世帯の年平均収入は1世帯当たり11,105元で，一人当たりの収入を計算すると2,192元となった．

また，支出（家計費）をみると，5,000元未満の農家はなく，5,000～9,999元の農家が24戸（40%），

10,000～14,999元の農家が30戸（50%），15,000～19,999元の農家が6戸（10%），20,000元以上の農家はなかった．年間平均支出は1世帯当たり10,250元である．農家の年間収入と年間支出の差は600元と非常に少なく，女性はやりくりするのに苦労している．また，税金を支払うことが困難な農家は多く，教育費さえもなく学校をやめざるを得ない子供も多い．しかし，最も重要な問題は，医療費がないために病気になった場合でも治療ができないことであるという声が聞かれた．

2　三坪農場における女性の教育と結婚

1）農村女性の教育水準

三坪農場の調査対象女性の年齢構成を見ると（表4-5），20歳代は5名（8%），30歳代は16名（27%），40歳代が17名（28%），50歳代が19名（32%），60歳代は3名（5%）となっており，70歳代以上はいない．70代の女性がいないのはこの村の歴史が浅く，若い世代層が他の地域から移住してきたためである．

調査対象農村女性60名のうち，非識字者はいなかった．しかし12名もの女性が無学である（表4-6）．また，教育を受けている場合でも，高校教育を受けた女性が2名いるものの，33名は小学校しか卒業していない．本論文では中学卒業以下を低学歴としているが，中学卒業の13名と小学卒業の33名，合わせて46名（77%）もが低学歴であることがわかる．

教育を受けていない女性が学校へ行かなかった理由は（表4-7），表に示す4つの事情によることがほとんどであった．本人達は学校へ通う事を強く希望していたにもかかわらず通学できなかった場合が多い．ウイグル農村では「女性は小学校の知識のみ，文字の読み書きだけで十分である」と考えられており，この考え方が今でも残っている．家族の問題で学校に行かなかった女性は36%で，経済的問題は33%であった．現在でもウイグル農村には農業機械はほとんどないため，全ての農作業は手作業で行っており，女性達は頭脳労働ではなく，肉体労働による収入で生活をしているといえる．そのため，教育のことをあまり重視していない，結果として子供達も教育を受けることが出来なくなる，といった悪循環を繰り返している．また聞き取りによると，1980～2000年の20年間にウルムチの大学を卒業した三坪農場出身の高学歴者約100人は全員都市部に就職し，帰村している女性は1人もいないということであった．そのことも反映して，本調査対象女性の学歴が相対的に低くなったものである．

2）農村女性の結婚と教育

表4-5によると，すべての調査対象女性が20歳以前に最初の結婚をしているが，13～15歳まで結婚した女性は46名（77%）いる．そのうち現在50代以上の女性はすべて13～15歳までに最初の結婚をしており，いまから20年以上前は現在以上に早婚が多かったことが分かる．

表4-5　年齢別調査女性数および最初の結婚年齢
Number of women by age of first marriage
（人・%）

年代	女性の総数	割合	最初の結婚年齢	
			13～15歳	16～19歳
20代	5	8%	3	2
30代	16	27%	5	11
40代	17	28%	16	1
50代	19	32%	19	0
60代	3	5%	3	0
70代	0		0	0
合計	60	100%	46	14
割合	100		77	23

出所：表4-1に同じ

表4-6　女性の最終学歴
Educational background of women
（人・%）

最終学歴	人数	割合
非識字者	0	0%
無学	12	20%
小学卒業	33	55%
中学卒業	13	22%
高校卒業	2	3%
専門学校卒業	0	0%
大学卒業	0	0%
合計	60	100%

出所：表4-1に同じ

表4-7　低学歴の要因
Reasons for low educational level
（人・%）

低学歴の要因	非識字者	無学	小学	合計	割合
学校へ行きたくない	0	0	3	3	7%
経済的要因	0	5	10	15	33%
学校が遠いから	0	3	8	11	24%
家族の問題	0	4	12	16	36%
合計	0	12	33	45	100%

出所：表4-1に同じ

表4-8　女性の低学歴と結婚回数
Correlation between low educational level and remarriage
（人・%）

学歴	結婚回数				
	一回	二回	三回	合計	再婚率
非識字者	0	0	0	0	0%
無学	7	3	2	12	42%
小学	27	6	0	33	18%
中学	10	3	0	13	23%
高校	2	0	0	2	0%
専門学校	0	0	0	0	0%
大学	0	0	0	0	0%
合計	46	12	2	60	23%
割合	77%	20%	3%	100%	

出所：表4-1に同じ

教育を受けた女性と教育を受けていなかった女性を比べると，大きな違いがみられた．教育を受けた女性の80%は家族の状況を詳しく説明することができた．しかし教育を受けていない女性は，特に経営面積，請負面積，自留地面積，経済状況，一ヶ月の家計，子供の教育費等の状況を説明することがほとんどできない．質問に対する回答で教育を受けているかいないかを容易に判断することができる．表4-8を見ると，再婚した女性は14名おり，そのうち5名が無学，6名が小学卒であった．全体の再婚率は23%であるが，無学女性の再婚率は42%と高く，低学歴と離婚に強い相関があることが分かる．

3　三坪農場の女性の農作業従事と収入

1）農作業時間

農家女性は農繁期[注1]には平均一日10.7時間の農作業を行っている．農閑期でも4.3時間を農作業に費やしている（表4-9）．また，農閑期にほとんどの女性が工場で働くため，睡眠時間が短い．これに対して，家事や育児に費やす時間は農作業の時間より非常に少ない．夏季の農繁期の間には家事の担当は娘である．一方，農閑期には家事の時間は非常に長いが，これには小物を手作りする時間と家畜の世話に費やす時間が含まれており，育児などの家事労働に費やしているわけではない．

睡眠時間が短いのは，ウイグル人はイスラム教徒なので朝4時には御祈りをし，その後家畜の世話をしているということも原因である．

2）農作業の就業開始年齢

表4-10によると，ウイグル農村では就業開始年齢がかなり低く，三坪農場では10歳以前の就業はいないが，11歳～14歳での農業就業が35%で，15歳～18歳では全員が就業している．家の手伝いという形で農作業に取り組み始めているのである．表示はしていないが半数以上の女性が結婚する前に農作業を経験している．

表4-9　三坪農場女性の農業労働と家事労働の時間
Average working and housekeeping hours a day
（時間）

1日の労働時間				睡眠時間	
農作業		家事			
農繁期	農閑期	農繁期	農閑期	農繁期	農閑期
10.7	4.30	5.3	7.28	5.0	4.6

出所：表4-1に同じ

表4-10　農業就業開始年齢
Starting age of farming job
（人）

年齢	人数	割合
7 ～ 10	0	0%
11 ～ 14	21	35%
15 ～ 18	39	65%
合計	60	100%

出所：表4-1に同じ

3）農家の年間収入と女性個人収入の貢献

先に表4-4で世帯別の年収を見たが，年間15,000元以上の高額収入者の14世帯では，夫が牧羊業を兼業している．夫が出稼ぎの間，農村では女性と子供達だけでブドウの生産を行っている．表4-11で女性の世帯収入に対する貢献度を見てみると，世帯平均収入10,850元に対して，平均女性収入は4,057元であり，世帯収入の37%を占める．ヤル村の場合と大きく異なる．三坪農場の場合には食品加工工場が隣接しているほか，ウルムチ市に通える距離にあるので，女性の手仕事による工芸品その他の生産物の販売にも便利であるというようなことから，収入機会が多いことが女性収入の貢献が高い要因となっている．

三坪農場では女性収入の世帯収入への貢献度が相対的に高いことの結果として，女性の収入の自由度がヤル村と比較すると高い（表4-12）．収入の全てを夫に渡すという回答は17%で，83%の女性が多少とも自分の裁量で自由に使う部分を持っていると答えた．女性の経済的地位が高まることが女性の権利の拡大にもなっているわけである．

表4-11　農家の年間世帯収入に占める女性収入の割合
Household income and women's contributions　（単位：元・戸）

年間世帯収入	農家数	平均収入	平均女性収入	女性収入割合
5,000未満	0	0	0	0
5,000～9,999	24	7,500	2,963	40%
10,000～14,999	27	11,556	4,605	40%
15,000～19,999	7	16,571	4,857	29%
20,000以上	2	21,500	7,000	33%
合計・平均	60	10,850	4,057	37%

出所：表4-1に同じ

表4-12　女性の個人収入の自由度
How women use their income
（単位：人）

	実数	割合
夫に全部渡す	10	17%
一部自分で使える	10	17%
自分の部分は全部自由に使える	17	28%
家族全員の分を自分が取り仕切る	23	38%
合計	60	100%

出所：表4-1に同じ

注
[1] 三坪農場の農繁期は7月～10月までのブドウの収穫期間である．

V　調査対象地の比較

二つの調査地は歴史的背景が大きく異なる．ヤル村は昔ながらの農村地域で，村民のすべてが同じ地域で生まれ育ち，ほとんどの村民がウイグル族でイスラム教を信仰しているため宗教的，習慣的観念が根強い．また，中国語がほとんどできないため，農業に関する知識，経済に関する情報などはウイグル語でながれるものだけとなっている．一方，三坪農場は新中国できてから開拓された新しい農村地域で，村民のほとんどが他の地域からの移民で，多民族の地域である．漢民族との交流で中国語での会話ができるようになっており，中国語による農業に関する知識，経済に関する情報など接する機会が多い．また，宗教信仰も様々であるため異文化との交流が進行して宗教的，習慣的観念が変化している．

本調査の結果，二つの調査地，ウルムチ県三坪農場とトルファン市ヤル村の比較をしてみるといくつかの点を指摘できる。

1．家族構成は，三坪農場は移民が多いため高齢者は少なく，3～6人家族の世帯が多い．ヤル村では昔ながらの農村のため，7人以上家族の世帯が多い．

2．農業生産は，三坪農場では請負耕地でブドウ（ワイン）とトマト（ケチャップ）の生産を主にし，ヤル村では労働集約的な干しブドウ用の高品質なブドウ生産が盛んで，零細な経営が多い．三坪農場の平均耕地面積は28.5a，ヤル村は43.3aであった．

3．最終学歴では，三坪農場では非識字者がいないのに対してヤル村では14人の非識字者がいる．この主な原因は20年前まで交通の不便な農村を中心に行われた「非識字者一掃運動」がヤル村では徹底的に行われていなかったことであると考えられる．ウルムチ市に比較的近い三坪農場のほうがヤル村より教育水準が高い．

4．低学歴の原因としては，両村とも家庭事情と経済的理由とがあげられている。1980年から2000年までの20年間でウルムチの大学を卒業した高学歴者（三坪農場から100人，ヤル村から170人）は全員都市部に就職し，帰村している女性は1人もいないため，農村部の女性の学歴は相対的に低いことも要因である．

5．両村とも20歳以前にすべての女性が結婚しているが，特に三坪農場の場合には15歳までに結婚しているものが多いのにたいして，ヤル村では20代，30代の女性には15歳までに結婚するものはみられず，次第に早婚の傾向は薄れてきたことがわかる．結婚回数は，両村でも低学歴の女性の方が多い．再婚率は三坪農場23%，ヤル村36%と高い．三坪農場では無学女性の42%，ヤル村では非識字者全員，無学女性の半分が離婚，再婚している．

6．農繁期の農作業は三坪農場よりヤル村が長い．ヤル村では干しぶどう用のブドウを栽培しており，

表5-1　三坪農場とヤル村の経済生活水準の比較
Comparison of household economies between 7th Sanpei Commune and Yaru Village

（元）

	1世帯当たり年間収入	家族1人当たり収入	1世帯当たり年間家計費	家族1人当たり家計費
ヤル村	9,832	1,232	9,002	1,128
三坪農場	10,850	2,192	10,250	2,071

出所：2002年8月調査と2003年8月の調査により作成

表5-2　三坪農場とヤル村の現金収入機会の違い
Difference of income sources between 7th Sanpei Commune and Yaru Village

（元）

	ヤル村	三坪農場
男の農外収入	966	3,245
妻の収入	942	4,057
農業収入	7,924	3,548
男の農外就業機会	ウルムチ市への出稼ぎ	近隣の食品加工工場ウルムチ市への出稼ぎ
女の就業機会	農作業雇用，村役場	近隣の食品加工工場・工場のまかない婦・レストラン・村役場・小売店・育児・牛乳販売・卵販売・羊毛絨毯製造・羊肉販売
女性の手仕事	ナン製造・牛乳製造・ヨーグルト製造・布団製造・服仕立業・枕の袋製造・帽子製造・干しブドウ	アイス製造・クッキー製造・ナン製造・ヨーグルト製造・バター製造・パン製造・布団製造・服仕立業・枕の袋製造・羊毛敷物製造
手工芸品の販売先	スーパーと契約・バザーで販売・路上販売・自家の庭で販売・レストランと契約	スーパーとの契約・レストランと契約・市場で販売・自家の庭で販売・クッキー屋との契約

出所：表5-1に同じ

特に収穫および乾燥の時期の労働時間が長い．一方，三坪農場では農閑期にほとんどの女性がトマト（ケチャップ）加工工場で働くため，農繁期よりも睡眠時間が短いという特徴がある．

7．三坪農場では10歳までに農業を始めた女性はいないが，ヤル村では半数の女性が7～10歳で農業を始めている．農作業上，子供の労働があてにされ，家族ぐるみの労働によってブドウ生産が行われているためである．

8．1世帯当たりの年間平均収入は三坪農場10,850元に対して，ヤル村は9,832元であり，大きな違いはない（表5-1）．しかし家族1人当たりの収入は三坪農場が年間2,192元であるのに対して，ヤル村では1,232元と大きな開きがある．これは家族数に差があるためである．正確な労働力数の換算が出来ないために，労働者1人当たりの収入の比較は出来ないが，両村で世帯の収入力に大きな差があることが推察される．

9．両村の経済水準の差は，家計費を見ることで一層明瞭になる．三坪農場の1世帯当たり年間家計費は10,250元で，家族1人当たりは2,071元であるのに対して，ヤル村では1世帯当たりの年間家計費が9,002元で，家族1人当たりは1,128元である．生活水準は単に現金収入だけではなく，住居や現物経済の状況にも依存するから単純な比較は出来ないが，ヤル村の経済生活水準は三坪農場の半分程度の水準だといえよう．

10．このような生活経済水準の相違をもたらす主要な要因は，収入機会の相違であって，表5-2に見るように，三坪農場のほうは，農業収入はヤル村の半分程度であるが，ウルムチ市に近いということ．近隣に食品加工工場が立地していることなど農外の就業機会に比較的恵まれている．相対的にヤル村では農業収入に依存する割合が高く，女性や子供の労働力も動員してブドウ生産に総力を挙げているわけである．

11. 今回の調査では高学歴者がいなかったために調査できず，学歴と収入の相関関係は明瞭には見られなかった．しかし，三坪農場の女性のほうは，ウルムチ市近郊および漢民族との混住という条件もあって，教育水準が相対的に高く，中国語の会話能力も高い．したがって食品加工工場への就業機会もあるとみられる．

Ⅵ 結　　論

現在，中国および新疆ウイグル自治区では，都市部と農村地域での人々の教育レベルの差は大きくなる一方である．特に女性の場合，高学歴の女性は都市部に集中し，農村地域では無学者が増えている．そこで我々は農村地域における女性の教育レベルの現状および低学歴と家庭経済状況がどのような関係にあるかを明らかにすることを目的として，２つの地域で調査研究を行った．

本論文では，Ⅰ．において新疆ウイグル自治区の概況について，Ⅱ．では新疆ウイグル農村女性の現状について，貧困地域での女性の教育レベルおよび結婚観と就業問題について述べた．Ⅲ．ではトルファン市ヤル村の農村女性50名，またⅣ．ではウルムチ県三坪農場の農村女性60名の農村女性の調査を下に，ウイグル農村女性の教育と結婚，および就業問題を検討した．さらにⅤ．においては両村の比較を行い，その類似点と相違点を明らかにした．

この２つの村で調査した結果，当初想定していた学歴と経済状態についての関連は比較できる高学歴者が存在しなかったために，明確にはならなかった．おしなべてウイグル農村女性においては教育機会が乏しく低学歴状態に置かれていることが分かった．そして低学歴は離婚と深い相関があり，早婚であることがさらに低学歴及び離婚の原因となっているという悪循環にある．このような状態に置かれている女性はヤル村の状況を見ると分かるように，世帯においては重要な労働力として過重な労働を担っているが，家庭内での地位は高くなく，依然として低権利状態に置かれている．しばしば夫の暴力も受けている．これに対して，教育水準としてはヤル村とほぼ同じような状況にあるが，大都市への距離や兼業機会の点で恵まれた三坪農場の女性の場合は，直接に食品加工場に勤める機会や手工芸品をウルムチ市において販売することも可能である，などの条件によって女性の収入が世帯の収入に寄与する割合も高く，その収入を自ら采配することも多くなってきている．これには漢民族と混住しているために言葉の面でのハンディが軽減されていることも作用している．

以上のように，農村女性の教育水準を高め，職業訓練機会を設けることがウイグル農村女性の地位向上のために必要不可欠であることが明らかになったが，同時に直接に種々の手段によって経済的収入機会を増やすことも農村女性の地位向上には重要であることが明らかになった．

引 用 文 献：

[1] 人口学部全員：1990年新疆ウイグル自治区農村人口考察，新疆社会科学院，新疆人民出版社（1990）
[2] KHIN EI HTUN：労働交換をしている農村女性の生活時間と意識，農村生活研究，第45巻第４号，日本農村生活学会（2001）
[3] 北京社会科学人口研究室編：中国少数民族農村人口調査統計，北京民族出版社（1990）
[4] シェレナイ：南新疆ウイグル農村女性職業選択調査，月刊新疆師範教育大学８月号，師範教育大学出版（1990）
[5] シェレナイ：南新疆ウイグル農村女性の結婚観調査，月刊新疆師範教育大学10月号，師範教育大学出版（1990）
[6] シェレナイ：南新疆ウイグル農村女性の教育レベル調査，月刊新疆師範教育大学11月号，師範教育大学出版（1999）
[7] 新疆ウイグル自治区地方雑誌編集委員会：新疆年鑑2000，新疆年鑑社（2001）
[8] 揚一星：中国少数民族農村女性健康雑誌，中国少数民族女性発展論文集，藍州大学出版社（1996.7）
[9] YU FENG TONG：中国少数民族農村女性発展論文集，新疆大学月刊報，中国広播電視出版社（1995.6）

Rural Women's Status and Role in Xinjiang, China

Roxianguli Abulimiti, Izumi IWAMOTO, Hiroshi SAKAZUME and Fumie TAKANASHI
(*Laboratory of Agricultural Marketing*)

Summary

Recently, in the case of the rural women of Xinjiang Uighur, differences in educational levels have widened. We investigated the situation of women in two areas, Yaru village in Turfan City and Sanpei Farm in Urumqi Prefecture for the purpose of showing clearly the relation between the present condition of a household economy and the low educational level of females in a farm village area.

Our investigation in two villages revealed that Uighur rural women still have meager educational opportunities and that low educational levels have deep correlations with early marriage and a high divorce ratio. However female income as a proportion of household income has gradually increased. It became clear that it is important to improve the income opportunities for rural women in Xinjiang.

Key words: Xinjiang, Uighur, rural women, educational level, early marriage